

高分子学会会長メッセージ

(京都大学大学院工学研究科 教授) 秋吉一成

高分子学会は、世界で最も大きな高分子科学の学会として、先人のたゆまぬ努力により、学術・技術・社会の発展に大きく貢献してまいりました。一方で、近年は、学術、産業的に諸外国の追従が厳しい現状もあります。今期は創立 70 周年という節目を迎えます。高分子科学は、今後も時代を革新する重要なサイエンス&テクノロジーであることは間違いありません。学問(両輪としての基礎と応用)の継承と深化、持続的で豊かな未来社会創造に貢献するために、世界を牽引する魅力ある学会であり続けるように、努力してまいりたいと考えています。



高分子学会では、創立 60 周年の際に「持続成長可能な社会実現に向け貢献する高分子学会」という学会ビジョンを掲げ、さらに、SDGs に向けて、3つの融合(Integration)(知力の融合、マテリアルの融合、人材の融合)が重要であり、それらを具現化する 20 項目のアクションプランを提言「未来宣言 2017」致しました。昨今の大きく変動しようとしている社会において、学会として何をなすべきか、何ができるのかを考え、超スマート社会における新たなプラットフォーム(①発見と独創性を育む交流プラットフォーム、②戦略的連携推進、世界情報発信プラットフォーム、③次世代&グローバル人材育成プラットフォーム)を築いていく必要があると考えています。

国内では、Society 5.0(超スマート社会)の実現に向けた第 5 期科学技術基本計画に続き、来年 4 月から開始される第 6 期科学技術基本計画策定に向けての議論が行われています。人文科学を含む科学技術の活性化及びイノベーション創出の活性化の在り方において、大学の責務、人的資本への大胆な国家投資、技術革新予算の拡大などの重要性が指摘され、人間中心の科学技術政策と日本らしいイノベーションモデル(ジャパンモデル)の提示が唱えられています。

化学界、産業界は、益々細分化、多様化していますが、将来の日本の技術、産業のさらなる発展を担うような研究のブレイクスルーを産み出すためには、俯瞰的で分野横断的な自由な発想を有した活力ある人材の育成が不可欠です。これらを実現し得る新たなプラットフォームの構築に向けて、化学系学協会の発信力や相互交流の強化と政策提言の協働を達成し得る日本化学連合は重要な役割を担っていると思います。